

V. 特記事項

1. シミュレーターを使用した特色ある教育

【獣医学科】 犬のシミュレーター（バイタルサインドッグ）を本学独自に考案し作成した。このシミュレーターは、ビーグル犬をモデルとしており、聴診による心拍数や触診による脈拍数、視診による呼吸数の測定などの様々な臨床的な技術を習得することが可能であり、獣医学科5年次に行われている共用試験の1つであるvetOSCEに使用している。また、犬の前腕をモデルとした採血練習用シミュレーターも考案し作成した。このモデルは、疑似血管に赤い液を通すことで、採血の練習を行うことが可能である。また、静脈を確保するための留置針を設置する練習にも使用することが可能であり、主に「獣医内科学実習」にて使用している。また、産業動物臨床教育ではウシの繁殖学教育模型、ウシの分娩シミュレーション模型、子ウシのシミュレーション模型、ウマの頸部静脈穿刺／筋肉注射トレーニング模型を各1台設置し、3年次から5年次の臨床実習で活用している。



図特-1 採血練習用シミュレーター

【獣医保健看護学科】 1年次後期の「動物形態機能学実習」において、生体解剖の代替として犬猫の解剖学シミュレーターを活用し、動物の臓器の構造と配置について理解させている。また、2年次以降の動物内科看護学実習や動物外科看護学実習において、犬の採血用モデルや心臓マッサージモデル、保定用の人形などを導入し、動物看護技術の習得、向上に役立てている。

【動物科学科】 3年次前期に「実験動物学実習」を開講しマウスの取り扱い及び投与手技について学習するが、生体のマウスに触れる前に三協ラボサービス（株）のシミュレーター「Mimicky®」を用いてマウスの特徴について理解させている。「実験動物学実習」以外にもフレッシュゼミ（1年次後期）やオープンキャンパスでの研究室概要説明でもマウス及びラットのシミュレーターを活用している。

2. 国家資格：「愛玩動物看護師」の養成

獣医保健看護学科は、平成17(2005)年4月、我が国初の獣医保健看護学教育を行う学科として設置され、大学院体制も整え、動物看護師（民間資格）などを含む獣医療専門技術者として社会に貢献する人材を輩出している。令和元(2019)年6月、愛玩動物を対象とした動物看護師の資質向上・業務の適正を図ることを目的に、愛玩動物看護師法（令和元年法律第50号。以下「法」という。）が制定され愛玩動物看護師の国家資格が定められた（右写真：主務省作成チラシ）。本学科では、法第31条第1号並びに附則第2条第1号イ及びロに規定する農林水産大臣及び環境大臣の指定する科目の確認を申請し、令和4(2022)年3月4日に指定科目を確認した大学として公表された。これにより既卒者・在学者は、履修確認、講習会の修了と卒業、令和4(2022)年度入学者は獣医保健看護学科にて指定科目を修め、本学を卒業することで、愛玩動物看護師の受験資格が得られる。今後も、大学における獣医保健看護教育の先達として、愛玩動物看護師養成への社会的貢献が期待される。

